

東久留米の柳窪地区とは、

東京で唯一残された、武蔵野の面影濃い地域です。

江戸～明治期の、古民家 7 棟 蔵 20 棟が現存し、屋敷林や
緑地や畑が、一帯として残っています。

この清々しい環境で味わう落語は、一味違います。



この世界が なぜ、残ってきたのか

平成2年、地元の農家の有志が、周辺の宅地開発が進み、この地の景観を守るため、市街化調整区域の申請を行いました。これは、土地の価値を下げ土地販売ができにくくするものでした。更に、平成7年に東京都が緑地保全地域を設定。これらの手立てで、緑の島と言うべき一帯が存続してきました。

しかし、畑や緑地、古民家群は、年を経るごとに、新興住宅等へと変貌しており、現在の貴重な風景も消滅の危機にあります。是非とも、この機会に、日本の原風景に逢いに来ませんか？



落語の会場は、森の一角 柳窪天神社 社務所

落語会とは別途に、柳窪地域全体の見学会を企画しています。ご希望がありましたら、ご連絡下さい。

柳窪の古民家と屋敷林を守る会 柘植(つげ)

Email: tsuge.aa@triton.ocn.ne.jp ☎ 090-7637-2989